

<b>学校の概要</b>		学校名	茅野市立米沢小学校		学校長	小口 政英		児童生徒数	223 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	米沢小コミュニティスクール委員会		[その他の委員]*※具体的な役職名を記入 民生児童委員協議会会長 育成会、学校評議員 ボランティア代表 保育園長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれ的人数を記入)		地域コーディネーター		2 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				0 人
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	5月10日 6月15日 7月15日 9月1日(中止) 12月22日 2月7日 (計画は6回であったが、9月1日は感染症の状況により中止)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		こども館運営委員会委員長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		ひとりでもできる みんなとできる									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら考え判断し、進んで学習に取り組む子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○めあてをもって最後までやりぬく子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3	地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		60 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		300 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		読書ボランティア読み聞かせ(月1回) お話の部屋(10/25/27)		ふれあい教室(6/9,7/7・14,10/6・27,11/4)		縄文科学習(9/27,10/3,11/4)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)											
読書ボランティアの方の読み聞かせを感染症対策を講じながら、毎月第3水曜日にすべての教室で読み聞かせを行っていただいていた。経験豊富なボランティアの方々が、読み聞かせや紙芝居、中には語りで行ってくださる方もいて、子どもたちは大変興味を持ってお話の世界に引き込まれ聴き入っている。ボランティアの方々の読み聞かせに触れることで本への関心を高めることができた。感染警戒レベルが下がった秋の読書旬間では、ボランティアの皆さんが、お話の部屋を企画、準備してくださった。感染症対策のため学級の枠を超えて児童を集めるのではなく、各教室を訪問して読み聞かせを行っていただいた。語り、紙芝居、指人形劇など様々な工夫を凝らして企画して下さり、子どもたちは飽きること無くずっとお話に引き込まれていた。終わったあとに、楽しかった話について子ども同士で自然に話し始める姿も見られ、直接語りかけていただいたり、読み聞かせていただいたりしたことで、子どもたちの心に残るお話会となったと考えられる。											
<b>育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題</b> (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)											
今年度も感染警戒レベルによって活動を制限せざるを得ない状況が続く、急な予定の変更をその都度お願いするなど、ボランティアの方々にも負担をかけてしまっている。ふれあい教室は例年よりも回数が減ってしまい、作品を制作する教室では講師の先生方に大きな負担をかけることになってしまった。そのような状況の中でも、講師の方々には快く引き受けて下さり大変感謝している。ボランティアの方と子どもたちが関わる機会を減らさないために、感染警戒レベルに応じた、できる活動を考え、感染症対策を講じながら行っていきたい。											